

【 清瀬市 】 胃がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく胃がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胃部X線検査)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	21,026	23,499	44,525
【東京都調査による対象者率(市町村部): 57.8%】			
実際の受診者数	402	608	1,010

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

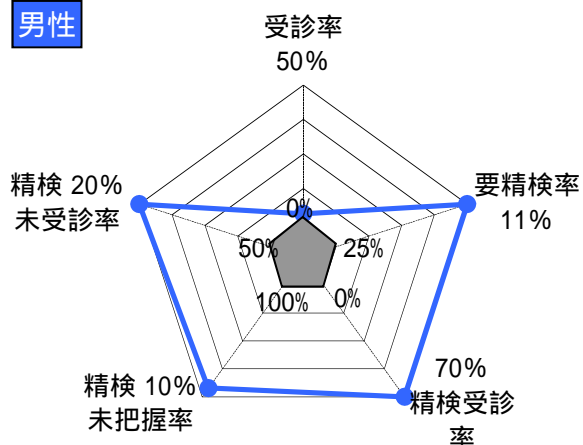
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

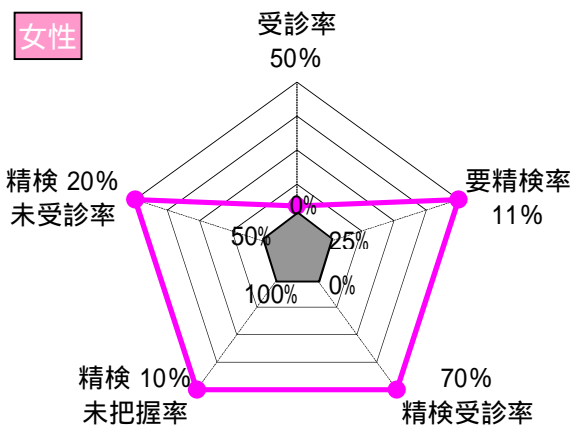
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	3.3%	4.5%	3.9%
要精検率	11%以下	10.2%	6.1%	7.7%
精検受診率	70%以上	75.6%	94.6%	84.6%
精検未把握率	10%以下	17.1%	2.7%	10.3%
精検未受診率	20%以下	7.3%	2.7%	5.1%
陽性反応適中度	1.0%以上	4.9%	5.4%	5.1%
がん発見率	0.11%以上	0.50%	0.33%	0.40%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【 清瀬市 】 肺がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく肺がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胸部X線検査及び喀痰細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	21,026	23,499	44,525
【東京都調査による対象者率(市町村部): 64.5%】			
実際の受診者数	168	308	476

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

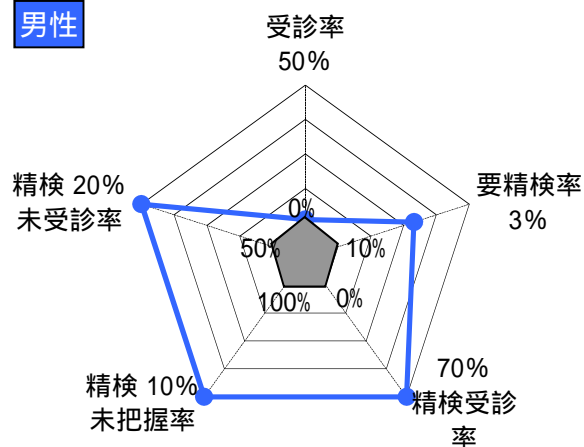
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	一部該当
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

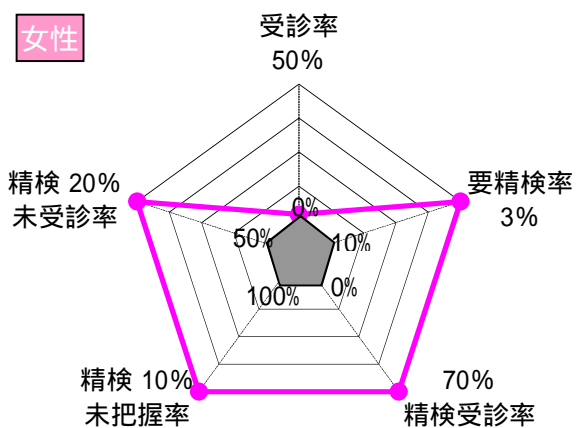
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	1.2%	2.0%	1.7%
要精検率	3%以下	6.0%	2.6%	3.8%
精検受診率	70%以上	90.0%	87.5%	88.9%
精検未把握率	10%以下	0.0%	0.0%	0.0%
精検未受診率	20%以下	10.0%	12.5%	11.1%
陽性反応適中度	1.3%以上	10.0%	12.5%	11.1%
がん発見率	0.03%以上	0.60%	0.32%	0.42%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

【 清瀬市 】 大腸がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (便潜血検査(二日法))	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	21,026	23,499	44,525
【東京都調査による対象者率(市町村部): 62.0%】			
実際の受診者数	773	1,323	2,096

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

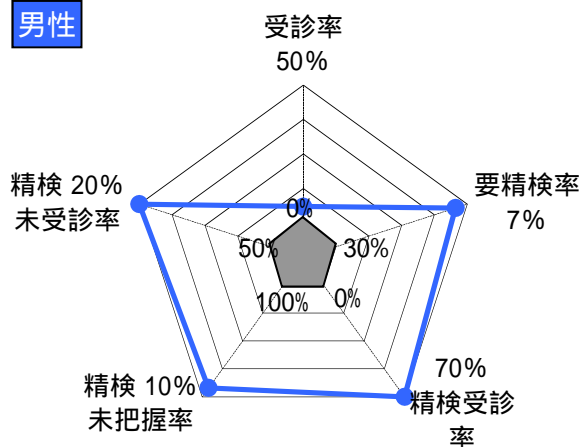
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

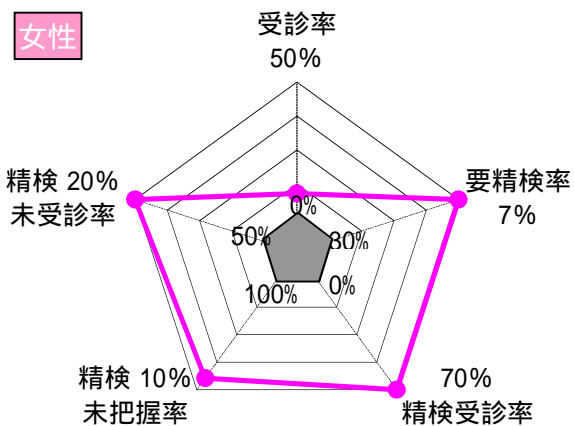
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	5.9%	9.1%	7.6%
要精検率	7%以下	9.1%	5.1%	6.5%
精検受診率	70%以上	70.0%	70.1%	70.1%
精検未把握率	10%以下	17.1%	19.4%	18.2%
精検未受診率	20%以下	12.9%	10.4%	11.7%
陽性反応適中度	1.9%以上	4.3%	6.0%	5.1%
がん発見率	0.13%以上	0.39%	0.30%	0.33%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【 清瀬市 】 子宮頸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (20歳以上:隔年)	している
検査方法 (細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		31,949	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 67.1%】			
実際の受診者数		1,505	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

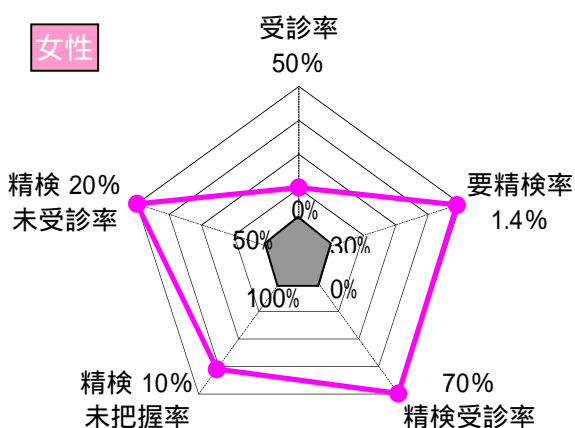
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		12.8%	
要精検率	1.4%以下		2.2%	
精検受診率	70%以上		69.7%	
精検未把握率	10%以下		30.3%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		3.0%	
がん発見率	0.05%以上		0.07%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

【 清瀬市 】 乳がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく乳がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上:隔年)	している
検査方法 (視触診及びマンモグラフィ)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		23,499	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 73.1%】			
実際の受診者数		1,615	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

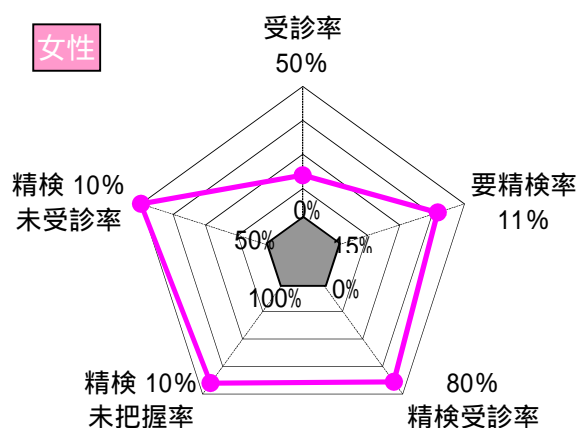
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		17.4%	
要精検率	11%以下		11.8%	
精検受診率	80%以上		71.2%	
精検未把握率	10%以下		18.8%	
精検未受診率	10%以下		9.9%	
陽性反応適中度	2.5%以上		3.7%	
がん発見率	0.23%以上		0.43%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。